

パンチャダシ

第2章

CHAPTER 2

5 元素の違い

The differentiation of the five elements

66 節～ 84 節

パンチャダシ PANCHADASHI

シュリ・ヴィドゥヤランヤ／ Sri Vidyaranya Swami 著

聖典パンチャダシは聖師シャンカラ大師が残された4つのシャンカラ僧院の中で、2017年11月に訪問した南インドのシュリンゲリ僧院において、1377年から1386年までシャンカラ職を務められたスワミ・ヴィドゥヤランヤ師の著作です。このパンチャダシはシャンカラ大師のヴェーダーンタ哲学を題名通り15章（パンチャダシャ・プラカラナ）に渡って解説しており、この15章は3部に分けて解説されています。1部目はヴィヴェカ・パンチャカ（非実在を真実在と区別する）、2部目はディーパ・パンチャカ（純粹意識たる真我を考察する）、3部目はアーナンダ・パンチャカ（絶対者ブラフマンの歓喜を考察する）です。ウパニシャッド聖典群に述べられるヴェーダーンタ哲学をしっかりと学べます。

第2章 CHAPTER 2

5元素の違い／ The differentiation of the five elements 66節～84節

66節 ヴェーダの論議の対象にする前と後とでは、ある事柄も誠に違って見えて来る。そこで、空元素について論議してみたい。

A thing appears to be quite different after a thorough discussion of the Vedic passage (concerned) from what it appeared before such a discussion. So let us now discuss the nature of akasa.

67節 絶対者ブラフマンと空元素とでは互いにその実体は異なる。両者の名称は異なるし、その名称から伝わる概念も異なる。絶対者ブラフマンは空元素や他の諸物を浸透している。空元素にはそうしたことはない。この点が両者の異なる点であると私たちは考える。

Brahman and akasa are different entities. Their names are different, and the ideas conveyed by their names too are different. Brahman pervades air and other objects. Such is not the case with akasa. This is what we know to be the difference.

68節 更に浸透している実体／サットとは、本質であるとか中心となるものである。そして、(それよりも浸透性が少ない) 空元素は属性であり、内に含まれるものなのである。理性や判断を鋭くさせれば、実体／サットは空元素とは異なるので、例えば無になって行くという空元素の性質とは何なのかを明らかにして欲しい。

The entity, Sat being more pervading, is the locus or substance; and akasa (being less pervading) a content or an attribute. When, by the exercise of reason or intellect, Sat is separated from akasa, tell me what the nature of akasa is i.e., it is reduced to nothing).

69節 もしもあなた方が（存在とは空元素から出て来るものであるとして）空元素は空間として存在し続けると言い張るならば、私たちは次のように言いたい。即ち、その空元素が‘無’ではないかと言いたい。空元素とは存在とも非存在とも異なるものであるとあなた方が言うならば、それではあなた方は意見を変えた事になる。(それというのも、それら両者とは異なるものを認めなくなるからである。そして勿論、私たちも同意見で

ある)

If you hold that (when existence is abstracted from it) akasa still remains as space, we reply, it should be regarded as 'nothing.' If you say: 'It is different from Asat as well as from Sat' you shift your position (for you do not admit anything which is different from both, which we, of course, hold).

70 節 空元素が存在するのは明白であると、あなた方主張するならば、その通りと私たちは答えたい。迷妄（マーヤー）の産物だからである。実際は存在しないある事物が顕現するのは、夢の中で象を観るが如くに幻影なのである。

If you argue that akasa is evident, then we reply: let it be; it is to the credit of the products of Maya. The appearance of an object which is in fact non-existent is an illusion (mithya) just as that of the elephant seen in a dream.

71 節 一つの講義とその講義の生徒とは異なるわけであるし、生きている人間とその者の肉体とは異なるし、属性の所有者と属性とは異なるわけであるから、存在そのものの絶対者ブラーフマンと空元素とは異なるのである。ここにおいて不明な点があるだろうか？

As there is a distinction between a class, and a member of a class, a living man and his body, and the possessor of an attribute and the attribute, so there is a distinction -- between existence (Brahman) and akasa. What is there to wonder at?

72 節 空元素と絶対者ブラーフマンとは異なると知的に考えてあなた方が言うとしても、しかし、実際にはその事実を人は確信しないだろうし、それは集中力かしっかりとした探究心が欠けている故の矛盾した結論故ではないかと私たちは言いたい。

If you say that granting intellectually that there is a distinction between akasa and Brahman, yet in practice one does not feel convinced of it, we ask, is such an absurd conclusion due to lack of concentration or tenacious doubt?

73 節 まずは心を瞑想状態に固定するように努め、あるいは、識別と証拠によって注意深く探究すればよい。そうすれば、絶対者ブラーフマンと空元素が異なるものであるという真理の確信が確かなものになるであろう。

If the first, be attentive by fixing the mind through meditation. If the other, then study the matter carefully with the help of reasoning and evidence. Then the conviction of the truth of the distinction between Brahman and akasa will be firm.

74 節 深い瞑想と証拠と論理的探究によれば、絶対者ブラーフマンと空元素とは相互に異なるものであることが分かるようになる。空間によって与えられた属性を有しての空元素を真実在ではないし、その場合の絶対者ブラーフマンも真実在ではない。

By means of profound meditation, evidence and logical reasoning, Brahman and akasa can be known to be different from one another. The akasa will not appear as real nor Brahman as having the property of space-giving.

75 節 悟った者にとっては、空元素は常に幻影としてあり、また、絶対者ブラーフマンは属性なきものとして輝いている。

To a knower akasa always shows its illusoriness and Brahman also always shines unassociated

with its properties.

76 節 (不断の識別と瞑想によって真実在と空元素との真の性質についての) 諸印象が極めて深められると、(属性を欠いた) 空元素の属性を真実在のものとして認知して、真実在なるものに対して無智な故に苦しむ者が驚くほど良く見えて来るものである。

When one's impressions (about the true natures of Sat and akasa) are thus quite deepened (By constant reasoning and meditation) one is amazed to see a person attributing reality to akasa and suffering from ignorance about reality being pure existence (void of all attributes).

77 節 このように、心の中に空元素の非実在性と絶対者ブラーフマンの真実在性とがはっきりと確立されてくると、純粹存在にして空元素やその他の元素とは異なる絶対者ブラーフマンを、そうした技法に従って識別すべきなのである。

Thus when the unreality of akasa and the reality of Brahman are firmly established in the mind, one should follow the same method and differentiate Brahman, whose nature is pure existence, from air and other elements.

78 節 真実在の絶対者ブラーフマンは万所遍在の存在であり、迷妄 (マーヤー) の領域には限界があり、空元素の領域は更に限りを有し、風元素は更にとということなのである。

The real entity (Brahman) is all-pervasive; the range of Maya is limited, that of akasa is more limited and that of the air yet more so.

79 節 風元素の属性としては、霧を含み、触覚や速さや動きを感じ取るという属性であると言われている。この風元素の属性の中に迷妄 (マーヤー) と空元素の属性と存在とが見出される。

The following are the properties air is known to possess: ability to absorb moisture, perceptibility to the sense of touch, speed, and motion. Existence and the properties of Maya and akasa are also found in air.

80 節 私たちが風元素は存在すると言うときは、宇宙の存在原理という力によって、そうになっているという意味である。風元素に残されている存在という概念は、非実在なる迷妄 (マーヤー) の性質なのである。また、風元素中に認められる音という属性は、空元素の属性である。

When we say, air exists, we mean that it does so by virtue of the universal principle, existence. If the idea of existence is abstracted from air what is left is of the nature of Maya i.e. a non-entity. The property of sound that is found in air is of akasa.

81 節 (反論) 以前 (67 節) に言われたように、存在とは万物に附随する属性であるが、空元素の属性ではない。今、あなた方は空元素は風元素に附随すると言っている。それは矛盾しなくはないのか?

(Objection): It was stated before (in 67) that existence was a natural concomitant of every thing and that akasa was not. Now you say that akasa is concomitant of air. Do they not contradict?

82 節 (答え) 空元素の属性である空間性は風元素の中には認められないと私たちは以前に言った。今ここに私たちは空元素の属性でもある音を造り出す属性は風元素の中にもあると言っている。ここに矛盾があると言うのか?

(Reply): We implied before that space as an attribute of akasa was not found in air; we now say that the ability to produce sound, which is also the attribute of akasa is found in air. Where is the contradiction?

83 節 (反論) 風元素が真実在のものとは異なると主張するならば、非実在のものとなる。それでは何故、諸感覚器官によって迷妄 (マーヤー) とは異なるものとして知覚される風元素は、迷妄 (マーヤー) と同様に非実在のものと言わないのか?

(Objection): If you argue that because air is different from the real entity it is unreal, why do you not infer that air, perceived by the senses being different from Maya, is not unreal like Maya?

84 節 (答え) 風元素は迷妄 (マーヤー) の属性を有しているので、非実在なるものである。非実在性は迷妄 (マーヤー) には普遍的であり、そこから出て来る結果にも附随する。何故ならば、原因である迷妄 (マーヤー) も結果の風元素も共に非実在なるものだからである。しかし、迷妄 (マーヤー) から生じてくる結果は知覚されても、その持てる力によって迷妄 (マーヤー) は知覚されないのである。

(Reply): Air is unreal because its nature partakes of the nature of Maya. Unreality is common to Maya, and its effects, because both differ from reality (existence), although Maya, being power, is not subject to perception whereas its effects are.